

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

雲 取 山 - 東 京 都 の 最 高 峰 -



雲取山(北天のタルから)

10月下旬、奥多摩・雲取山(2017m)に出かけた。「俊峰にして雲をも手に取るが如く」と古書に紹介された雲取山は、東京都の最高峰であり、東面は東京、北面は埼玉、南面は山梨の三都県にまたがる山でもある。今回はお祭から後山林道をたどり三条ノ湯泊、翌朝雲取山に登り、石尾根経由で鴨沢に下りるコースをとった。



三条ノ湯

奥多摩駅からのバスをお祭部落で降りたら霧雨だった。しっかり雨支度をして11時出発。後山林道をテレコンテレコン歩く。紅葉の盛期にはまだ少し早いのが残念である。14時青岩谷出合で林道終点。後は雑木林の中、三条沢沿いの緩やかな登り道をたどり14時半、三条ノ湯に到着した。

ここは、未だにカマドに薪をくべる昔ながらの風情の山の宿である。同宿は男ばかりの7人。風呂に浸かった後は、誰が言う

ともなしに酒盛りに移行湯した。お互い初対面ながら、酒の勢いで山談義は尽きない。

翌朝、雨も上がり、6時半出発。三条沢を渡り、水無尾根に取りつく。原生林の中、尾根の東側をからめるようにゆったりした登り。正に深山幽谷の趣きである。三条ダルミ付近から植生はカラマツ林に変わり、大した汗もかかずに9時40分、雲取山頂に到着した。

山頂は眺望絶佳。大菩薩の左に富士山、右に北岳などの南アルプスの山々、その前衛には飛竜山が大きく立ちはだかつて見えた。しかしとにかく風が強い。山頂の一角にあるログ



避難小屋

ハウスの立派な避難小屋に逃げ込んで、バーナー

を焚いて熱いコーヒーなど飲みながらゆっくり休憩した。

10時10分下山開始。石尾根は、途中の奥多摩小屋の前には立派なヘリポートがあったりして、広々とした散歩道である。周囲の山腹を彩る紅葉を愛で、富士山や南アルプスの英姿に魅せられながらのんびりした散策下降。ブナ坂分岐からは、眺望が売り物の七ツ石山への立ち寄りを衆議一決パスして直路、右の鴨沢への道に入り、ブナ林の中のほの暗い道をひたすら下る。いい加減に膝が笑い始めた14時、やっと鴨沢のバス停に到着した。



雲取山頂からの眺望